

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒が主体的に学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。 ②学校行事等を工夫・充実させ、生徒の主体性、協調性の育成を図る。	①積極的・組織的な授業改善や、生徒の主体的な活動を支援することへの意識の向上を図る。	①思考力・判断力・表現力を育成する授業のあり方をテーマとした研修や生徒の主体的な活動を支援する新たな取組みの実施を検討する。	①研修や新たな取組みの計画的な実行ができたか。	①授業改善のための授業研究協議会を実施した。モデル授業を参観しグループごとに、生徒の主体的な活動を支援する方策についての協議ができた。	①生徒の主体的な活動をどう支援するのかについては継続した検討が必要である。様々な校務分担を遂行しながら研修を効果的に企画・運営するための方策についても継続して課題とした。	35週確保の工夫や授業改善の方向性は理解できた。生徒に考えさせる授業の一層の充実を望む。志願変更前に入学生定員が充足するようカリキュラムも含めて学校全体で課題を探し対応してもらいたい。	授業改善に向けた研修等の取り組みを行ったが、さらに魅力のある、生徒の能動的な学びのカリキュラムの検討が課題である。	・学習者中心の授業への転換に向けて、教育環境を整備する。 ・「主体的な学び」と「言語活動の充実」のための校内研修会を継続する。
2	生徒指導・ 支援	①部活動や日常的な生徒指導を通して、社会規範を身につけ、自己実現に向けて努力する姿勢を育てる。 ②個に応じた支援体制の確立を図る。	①集団や社会の一員としてふさわしい振る舞いを身につけるよう指導の充実を図る。 ②組織的な教育相談体制の充実を図る。	①生活保健Gを中心とした指導方針を職員間で共有し、様々な機会を通して指導を徹底する。 ②担任による面談や必要に応じたケース会議の開催、スクールカウンセラーの有効活用を行う。	①近隣からの苦情が減少したか。 ②ケース会議等の取組みが支援を必要とする生徒に生かせ、課題解決に至ったか。 教育相談窓口の一層の周知が図られたか。	①多様な苦情が寄せられているので、きめ細かく対応する必要がある。 ②ケース会議の支援が必要な生徒が増加傾向にある。対象の生徒に活用できるように努力する必要がある。	①ホームルーム担任のきめ細かい指導体制を確立する必要がある。必要に応じて立ち番等の必要が出てきている。 ②学年会の活性化と各学年と教育相談担当者との連携が必要である。	カウンセリングの実施状況として、組織的な対応がスムーズに行われているようだ。生徒情報のキャッチは大変だと思うがこの部分については今後もしっかりやってもらいたい。	①苦情内容が多岐にわたり、生徒にきめ細かく指導する必要がある。集会等で事例を示し、生徒の気付きに繋がっていると考える。 ②教育相談窓口の周知は図れた。	①今後も事例を提示してきめ細かく指導しマナー向上へ結び付ける。生徒とのコミュニケーションをとり信頼関係を築き指導・支援に結び付ける。 ②新入生に周知を図る。各部署との連携体制に改善する必要があるれば、再検討する。
3	進路指導・ 支援	生徒一人ひとりの進路希望を実現できるように進路指導体制・教育相談体制の充実を図る。	進路ガイダンス・オリエンテーション等の充実と実力テスト等のデータの有効活用を図る。	生徒実態に合わせた進路ガイダンス・オリエンテーションや実力テスト等の計画的実施と活用を図る。	1・2年次に具体的な目標をもつことができるようになったか。学習習慣の定着拡充につながったか。	・職業観や上級学校の学習について段階的に学習し、オープンキャンパス等への参加を通して進路設計を行った。 ・スタディサポート等のデータの活用と、実力テストの振り返りを通して、個人課題の取組みについて、意識を高めた。	・進学マインドサポート体制の構築と、生徒一人ひとりの支援体制について検証し、完成に向けた取り組みを継続する。 ・自学自習支援、進路情報の提供、出願書類等作成支援のために進路室の整備を継続する。 ・大学入試改革に対応した支援体制の構築が課題である。	自習する生徒のために学習環境を整備し、補習等を行って、塾や予備校に頼らず進学サポートを学校で対応するという前向きな姿勢は評価できる。またそのような環境・雰囲気は、生徒に良い影響を与えると考える。	・進学マインドサポートプロジェクトの理念に基づく支援体制の完成を目指しシステムと環境の整備を行った。 ・ガイダンス・オリエンテーションを有効活用し、外部データを有効活用した相談を行った。	・進学マインドサポート体制の完成を目指し、検証と改善の取り組みを継続する。 ・生徒一人ひとりの進路実現のために、更なる学習支援と授業改善が求められている。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域貢献活動等を一層推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。	生徒の自己肯定感を高める地域貢献活動を継続して実施する。	・間門小学校と連携したアイサツタイムおよび見守り活動を実施し、定期的・継続的に実施し、参加生徒の拡大をはかる。 ・小学生を対象とした防犯教室を実施する。	生徒の自己肯定感を高めることができたか。	月1回の「アイサツタイム」並びに学期1回の「見守り活動」を実施した。また小学校1年生対象に防犯教室を実施した。	「アイサツタイム」は昨年度まで運動部だけの参加だったが、今年度は文化部も参加した。参加した生徒の自己肯定感を高めることができた。次年度も継続する方向で調整する。	アイサツタイムは非常に良い取り組みであり、ぜひ継続してもらいたい。 PTAとして、子供たちと一緒に活動する機会が少なく感じている。地域清掃はよい機会と思うので検討したい。	・小学校での「アイサツタイム」は部活動におけるあいさつの実践の場となっており生徒は充実感を得ることができた。 ・生徒とPTAがどのように連携できるか考えていきたい。	・地域清掃の場所はクラスごとに割り振ったが、ゴミがたくさん落ちている場所とほとんど落ちていない場所があった。生徒が自発的に地域に貢献するという意識を高めるためにも生徒自身に清掃場所を考えさせる機会をつくれたらよいと思う。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心・快適な学習環境を整備するとともに、不祥事防止を通じて保護者や県民から信頼される学校づくりを確立する。 ②学校の教育活動に関する情報発信を積極的に行い、学校への理解が深まるよう努める。	①必要な確認・整備をし校内美化を徹底する。 ・防災活動マニュアルの改善を引き続き行い、DIG研修を実施する。 ②学校HPや学校説明会をより充実させていく。	①清掃方法の確認および清掃用品を整備し、清掃活動の徹底を図る。 ・DIG研修を職員および生徒に実施する。 ・緊急避難場所としての対応を確認しマニュアルに取り入れる。 ②本校の教育活動に関する広報活動を積極的に行うとともに、説明会では生徒によるプレゼンテーションを継続していく。	①清掃活動の徹底を図れたか。 ・DIG研修を実施できたか。 ・マニュアルの改善に取り組めたか。 ②HPの更新や中学生や保護者に対して適切な広報活動ができたか。	①日課に設定された清掃時間に毎日清掃活動を実施し、校内美化の徹底を図った。 ・DIG研修は1学年教員と第1学年1クラスで生徒に実施した。 ・防災活動マニュアルは県から支持された作成例に沿って改定した。 ②行事の実施後、記事・画像のアップロードを速やかに行い、横浜立野高校の「今」を伝えるよう取り組んだ。 ・学校説明会で在校生によるプレゼンテーションを行い、好評であった。 ・今年度、中学校に出向く説明会に出身生徒を活用した。	①日々の清掃活動でより効果が高まるような方法の提示やチェックリストの作成や用具の整備等、できる工夫を続けたい。 ・DIGは今年度実施できなかった職員全体での研修を行い、3年間で1度は生徒が体験できる形態を作りたい。 ・防災マニュアルは改善したが、より不測の事態に迷いなく対応できるよう整備したい。 防災物品は整備が整ってきたが、収納場所のスペースが限界にきている。 ②中学生や保護者が必要としている情報を的確に発信していくこと。 ・HP上に古くなった情報がそのまま残されていないか、定期的に整理する。 ・事前指導を十分行い、毎回一定の水準でプレゼンテーションができるように準備していく必要がある。	①防災に関して、帰宅困難者への対応等ももう少し詰める必要があると思う。 県と市がざっくばらんに意見交換してほしい。 津波の想定が必要ではないか。その点、海側に隣接するJXTGエネルギーはどう対応しているのか、JXTGエネルギーの防災について学ぶような場面があったほうが良い。	①日課に設定された清掃活動は毎日実施できたがより効果の上がるような工夫が必要である。 ・防災活動では物品整備等の取り組みを続けるとともにマニュアルの更なる改善を続けたい。 ②生徒による学校紹介はアンケートの感想などからわかりやすく親しみやすいとの評価を得ている。これは生徒にとっても達成感や自己肯定感として返ってくるものが大きい。人選やどう後継者につなげるかなどの点に難しさがある。	①清掃物品の整備、清掃方法の確認、チェックリストの活用等により校内美化を徹底する工夫を続けたい。 ・中区との防災に関する情報共有やできればJXTGエネルギーの防災体制を参考に、迷いなく対応できるように防災マニュアルを整備していきたい。 ②大半の説明会が休日からわかりやすく親しみやすいことのないよう、授業などを通じて、表現力の備わった生徒を見いだし、プレゼンターをこなせるよう育成していきたい。